

# 今日のHIV/AIDS制御の動向と科学的エビデンス(西日本地区重点都道府県会議に寄せて)

京都大学大学院医学研究科 西浦博(代理. 小林鉄郎)

## 世界のHIV/AIDS制御の政策目標と方針

2. Treatment as prevention (TasP; 予防としての治療):  
治療によりウイルス量抑制⇒2次感染が抑制される  
**U=U (Undetectable = Untransmissible)**

### HIV TREATMENT as PREVENTION

A HIGHLY EFFECTIVE STRATEGY TO PREVENT THE SEXUAL TRANSMISSION OF HIV



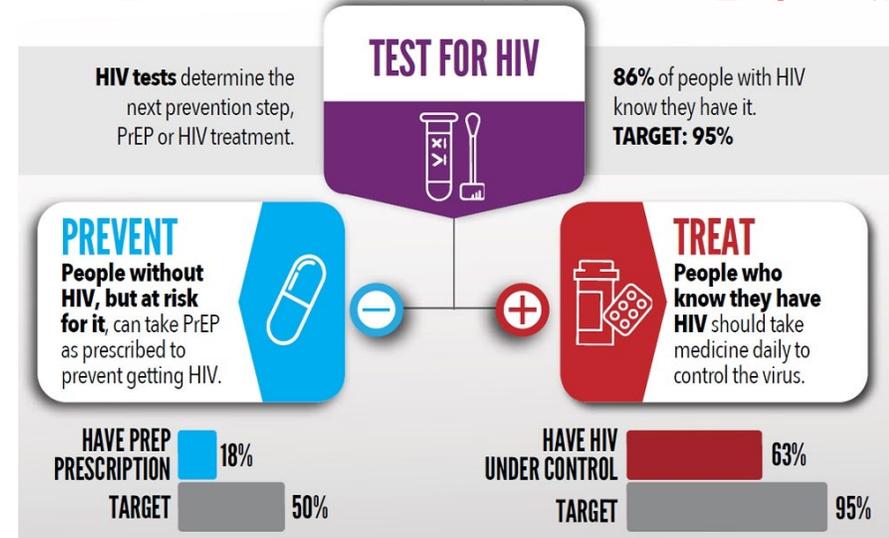
JUNE 2022

LEARN MORE AT [HIV.GOV/TASP](https://www.hiv.gov/tasp)



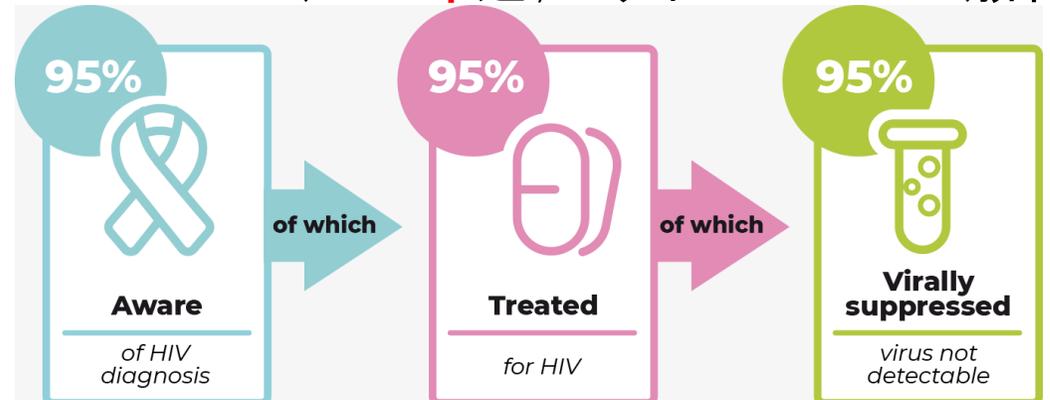
<https://www.hiv.gov/hiv-basics/hiv-prevention/using-hiv-medication-to-reduce-risk/hiv-treatment-as-prevention>

1. **Test and treat戦略**(「皆に検査を」):  
感染状態を知る=予後が改善+2次感染が減る



<https://www.cdc.gov/vitalsigns/test-treat-prevent/data-visualization.html>

3. 国連エイズ合同計画 (UNAIDS) スローガン  
**95-95-95** (2030年迄; いずれElimination(排除))

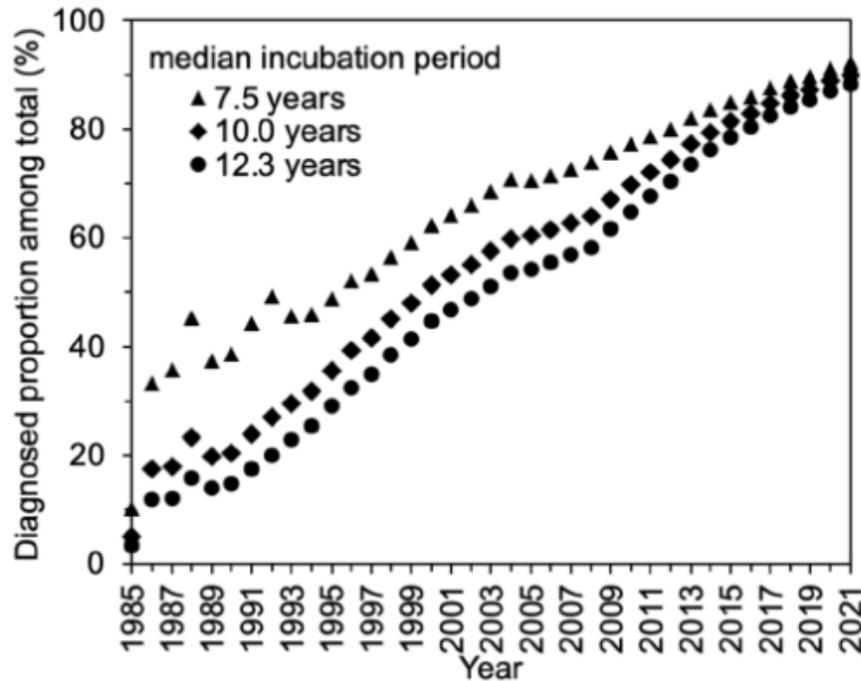


<https://awarehiv.com/en/about-aware-hiv/our-goals>

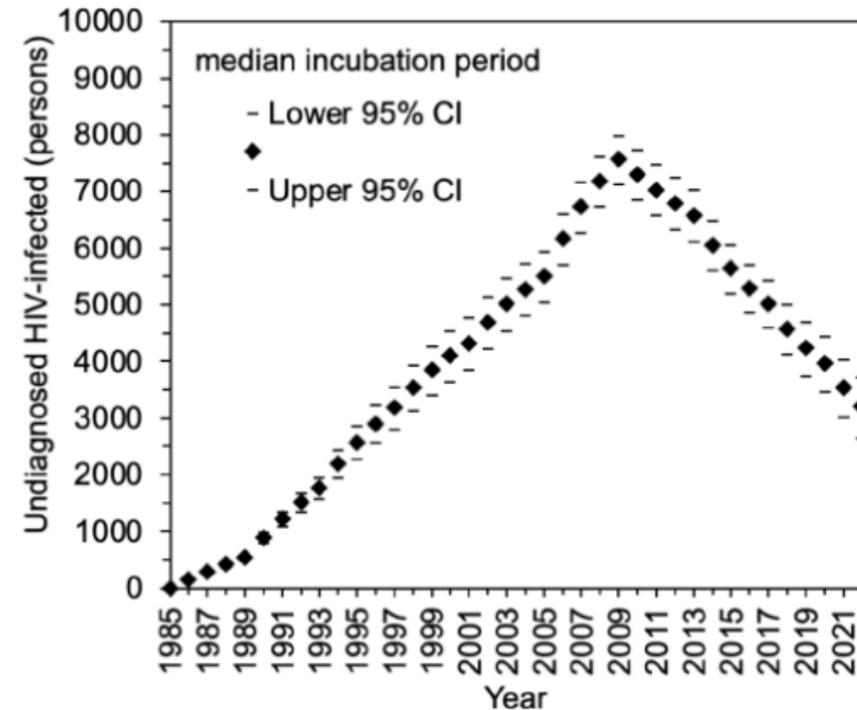
# わが国の現状と 予防指針のポイント

- ・少しずつ診断されているHIV感染者の割合は上昇
- ・2024年の論文出版までにおそらく**感染者の90%以上が診断と推定**
- ・日本国籍の**未診断者は以前として3000人以上が残るものと推定**

診断されている感染者の割合(日本国籍)



未診断のHIV感染者数の推定値(日本国籍)



Nishiura H, et al. Math Biosci and Eng 2024;21(4): 4874-85.

## 後天性免疫不全症候群に関する特定感染症予防指針の改正のポイント

### 【現状・課題】

我が国のエイズ発生動向について、新規HIV感染者・エイズ患者の報告数は平成25年をピークに近年は年間約1,000件前後で推移している。抗HIV療法の進歩により感染者等の生命予後は改善された一方、エイズを発症した状態でHIV感染が判明した者の割合は約3割を占めることが課題の一つであり、HIV感染の早期診断に向けた更なる施策等が必要である。

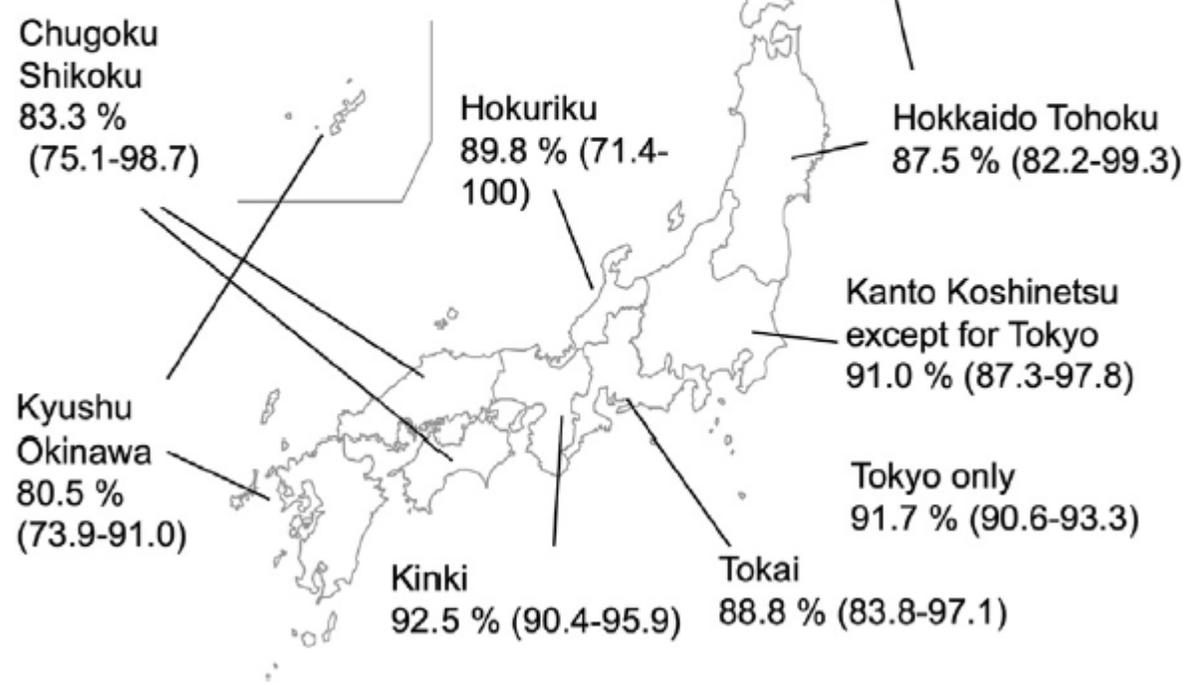
### 【対応（指針改正）方針】

HIV流行終息に向けて国連合同エイズ計画（UNAIDS）にて掲げている「偏見・差別、新規感染者、エイズ関連死をなくす」ことを念頭に、将来的なケアカスケードにおける95-95-95目標<sup>\*1</sup>の達成を目指す。特に我が国においては、上記課題の改善に向けて各種施策に取り組む。

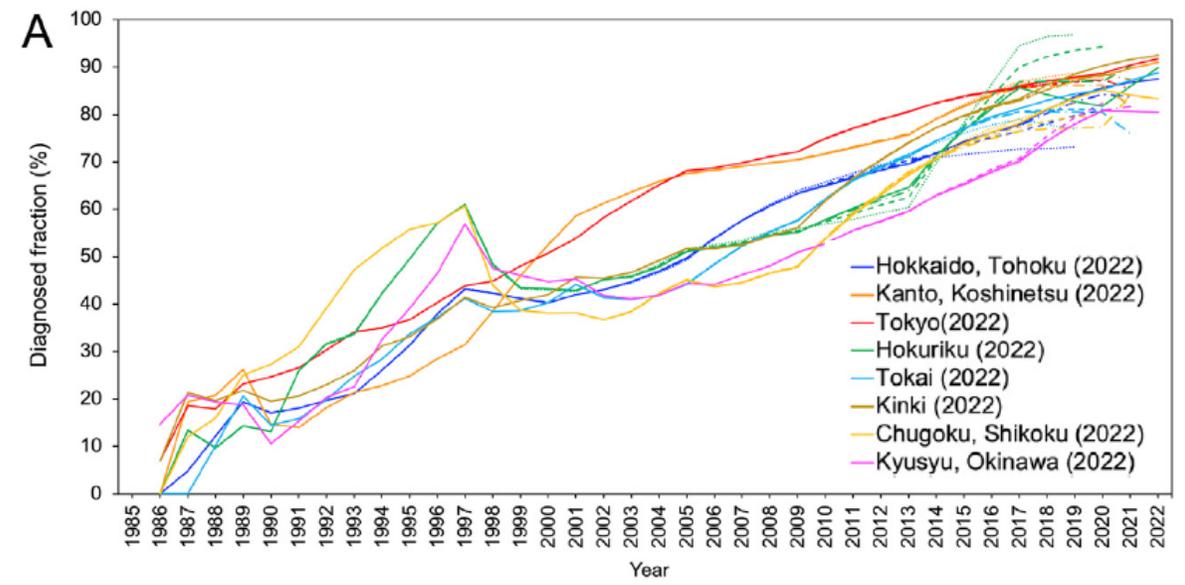
# 地域別にみた、わが国の診断者割合の推定値と傾向

- ・関東甲信越と近畿で2022年末までに90%超と推定
- ・その他の西日本地域で低い傾向

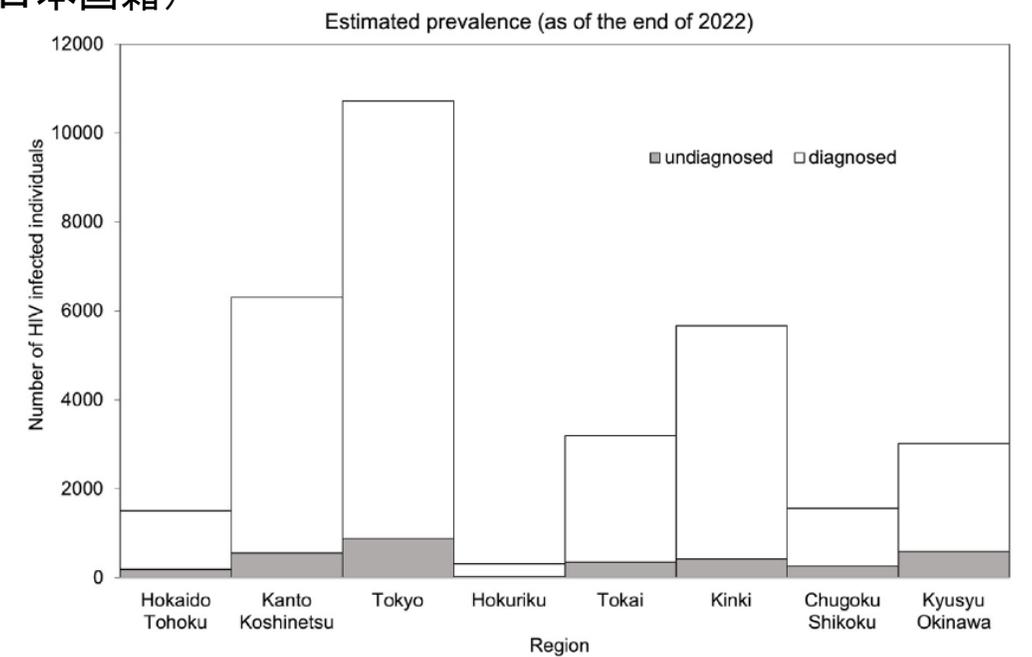
2022年末時点の道州別の診断者の割合 (日本国籍)



道州別のHIV感染診断者の割合の動向(日本国籍)



道州別のHIV感染診断者(白)と未診断者(灰)の推定値 (日本国籍)



いずれの図も Nishiura H, et al. Infect Dis Model 2025; 10(1): 40-49  
 本研究は厚労科学研究費エイズ対策政策研究事業「エイズ予防指針に基づく対策の評価と推進のための研究」(代表: 四本美保子、21HB1002)の補助を受けて実施しました